

平成16年11月10日  
農林水産省生産局

**食料・農業・農村政策審議会 生産分科会  
第8回畜産企画部会の概要について**

下記のとおり、食料・農業・農村政策審議会 生産分科会 第8回畜産企画部会が開催されました。

1. 日時 平成16年11月9日(火) 13:30～15:45
2. 場所 東京都千代田区九段南2-1-5  
農林水産省三番町分庁舎 2階 大会議室

3. 出席者

委員等：別紙のとおり [\[PDF\]](#)

事務局：畜産部長、畜産企画課長、畜産振興課長、牛乳乳製品課長、  
食肉鶏卵課長ほか

4. 意見交換

事務局より、「現行酪肉近代化基本方針等の検証」、「環境と調和のとれた家畜生産活動規範の策定について」、「家畜改良増殖目標の検討状況について」等に関する説明が行われた後、意見交換が行われ、委員からの主な発言は、以下のとおりでした。

(現行酪肉近代化基本方針等の検証)

現行の目標の方向に対して後退している飼料作物生産、牛肉生産量及び肉用牛頭数、酪農における都府県の生乳生産については、次期方針に向けて強力な対策が必要。

消費者ニーズといっても、一部矛盾や偏りのある身勝手なニーズもあるはず。生産・生活・環境の調和が図られるような健全なニーズを育てることも必要であり、生産者も消費者も一緒になって、食育を追究していくことが大切。

酪農教育ファームとふれあい牧場について、両者を対象者の年代別に分けて、それぞれのつながりがはっきりと位置付けられるようにできないか。

食育に関し、食のサポーターや食のボランティア等として、生産者の立場から消費者とのネットワーク作りに取り組んでいるが、一般消費者の方は、牧場での牛の個体管理の記帳状況や作物農家での農薬管理の記帳状況などを見て感心されることが多いことから、こうした活動は有意義である。

(環境と調和のとれた家畜生産活動規範の策定について)

フリーストール牛舎では、ふんと尿が混合したスラリーとなるが、これをたい肥化した場合塩類濃度が高くなり発芽障害が出やすくなるという問題があることを考慮して、研究開発を進めないと、使い易い肥とはならないのではないか。

畜産の環境規範については、現場で実行されていることをベースとして検討すべき。

自分の経営においては、飼料のラッピングビニールは飼料メーカーに引き取ってもらうなど適正に処理するように努めている。

環境規範が、仮に畜産農家に対して一般の企業と同レベルのコンプライアンスを求め

るものだとすれば、違和感がある。

日本にはない有機物が飼料という形で日本に入り、それが家畜排せつ物という形で国内に排出されている状況の中であって、飼料の自給率を高めることは、将来の環境保全に資するものである。

問合せ先

生産局畜産部畜産企画課 松本、歌丸

TEL 03-3502-8111 (内線3865, 3866)

03-3501-1083 (直通)

(別紙)

食料・農業・農村政策審議会生産分科会  
第8回畜産企画部会 出席委員名簿

(委員：2名)

生源寺  
増田

眞一  
淳子

東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
ジャーナリスト

(臨時委員：10名)

足立  
石川  
今野  
大野  
岸野  
近藤  
竹林  
土井  
中山  
山口

己幸  
郁子  
克枝  
康彦  
康子  
邦孝  
祐雄  
義弘

女子栄養大学教授  
食と生活ジャーナリスト  
酪農自営業  
(社)日本乳業協会副会長  
(財)日本農業研究所研究員  
サントリーお客様コミュニケーション部長  
北海道農政部農政課長  
北海道農政部農政課長  
東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
全国農業協同組合中央会常務理事  
北海道農業協同組合中央会副会長

(専門委員：4名)

金井  
番場  
福田  
向井

俊男  
久雄  
晋  
文雄

(財)畜産環境整備機構副理事長  
愛知県農業総合試験場畜産研究部長  
九州大学大学院農学研究院助教授  
神戸大学農学部応用遺伝学教授

(注：各委員の順は五十音順。)

(敬称略)